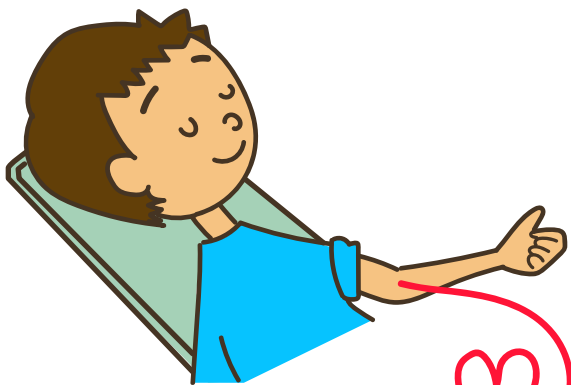
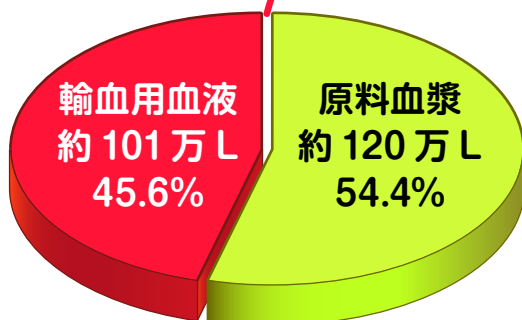


最近の血液事業の動向について～血漿分画製剤～

今や献血血液の半分以上が 免疫グロブリン製剤等の原料に!

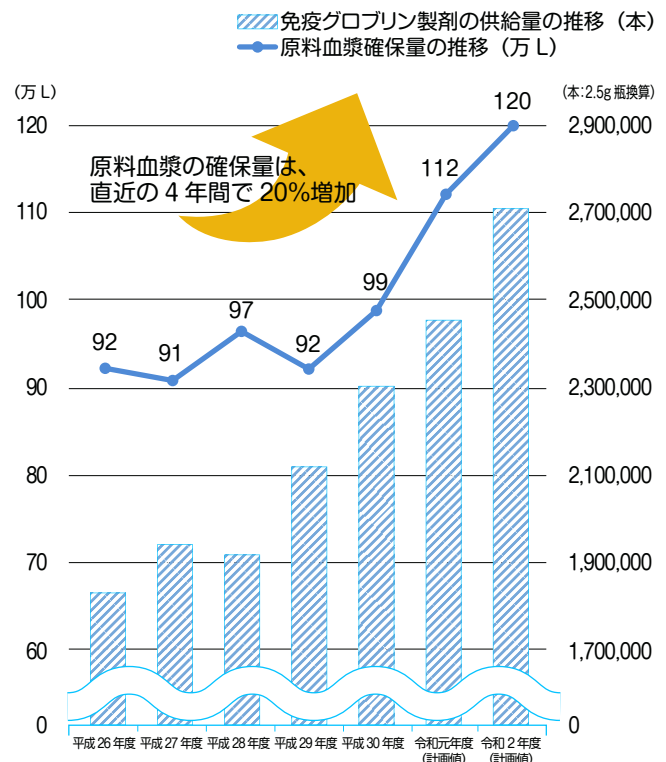


献血から得られる原料血漿を
もとに血漿分画製剤が製造されます



確保量に対する輸血用血液・原料血漿の割合
(令和2年度計画)

免疫グロブリン製剤の供給量と原料血漿の確保量の推移



令和元年度 第2回血液事業部会 資料 改変

令和2年度の計画では、輸血用血液製剤として約101万Lを医療機関に供給し、血漿分画製剤用の原料血漿として約120万Lを確保する予定です。医療技術や医療水準の向上、適正使用の推進などから、血液製剤*の需要動向は変わりつつあります。

特に**免疫グロブリン製剤**については、**神経内科領域**における適応範囲が拡大してきており、使用量も増加しています。

*輸血用血液製剤、血漿分画製剤(免疫グロブリン製剤やアルブミン製剤等)が該当します。



医療従事者のみなさまにおかれましても、献血推進及び献血へのご協力ならびに血液事業へのご理解を賜りますようお願い申し上げます。